様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２３年４月 18 日現在

機関番号：３２４０９
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2008～2010
課題番号：２０５９２６０２
研究課題名（和文）　出産･育児を通じた女性の SOC（首尾一貫感覚）の変化

研究課題名（英文）　The change in the SOC (sense of coherence) from pregnancy to the first year after delivery in the case of Japanese females

研究代表者
松下　年子（MATSUSHITA TOSHIKO）
埼玉医科大学・保健医療学部・教授
研究者番号：５０３８３１１２

研究成果の概要（和文）：
女性の妊娠初期から出産後 1 年までの SOC(sense of coherence: 首尾一貫感覚)、気分状態、QOL 得点の推移と、それら得点間の関連を明らかにすることを目的に、妊婦 320 名を対象に縦断的自記式質問紙調査を実施した（計 6 時点)。質問紙には SOC 評価尺度と坂野ら（1994）の気分調査票、EuroQol を含めた。その結果、対象女性の SOC 得点は妊娠初期から出産後 1 年まで、一般女性のそれと比較して明らかに高く、SOC と気分状態および QOL 得点間には軽度の相関が認められた。

研究成果の概要（英文）：
The purpose of study is to clarify the changes that occur in the SOC, emotional state, and QOL scores of a woman from pregnancy to the first year after delivery, and the relationship amongst these scores. We implemented a self-reported investigation (longitudinal study: six time points). The questionnaire included questions pertaining to certain attributes and items included in the Japanese version of Euro Qol, Sakano's emotional state scale, and the Japanese version of the SOC scale. The number of subjects was three hundred twenty. The average SOC scores were higher for the females during pregnancy and after delivery than for the general population of women. There was a significant relationship between the three scores.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2009 年度	500,000	150,000	650,000
2010 年度	800,000	240,000	1,040,000
総　計	2,500,000	750,000	3,250,000

研究分野：医歯薬学
科研費の分科・細目：看護学・生涯発達看護学
キーワード：母性・女性看護学
首尾一貫感覚、SOC （sense of coherence）、QOL、妊産婦、育児、精神保健

１．研究開始当初の背景

健康社会学者であるAntonovsky[1-3]が健康生成論の中でその中核概念として唱えた首尾一貫感覚、SOC（sense of coherence）は、社会や目前の対象、現象を把握可能な(comprehensible)、処理可能な(manageable)、有意味な（meaningful）ものと捉えられる能力のことである。その能力が高いほどストレス対処に優れ、健康問題を解決しやすいと報告されている。健康生成論では、いかなる人もその健康状態は「健康から健康破綻の連続体」上のいずれかに位置しており、連続体上のどこにあっても極側へと移動させる力がはたらき、それがSOCを代表とした「健康要因」であるとしている。このモデルの中でSOCの強さは、「緊張」という表現で置き換えられたストレスの処理の成否や、良質の人生体験の有無によって決定され、そのSOCがまた次のストレス（緊張）の処理過程に影響すると想定されている。

これまでの研究では、SOCが個人の精神的問題やQOLのみならず、健康関連の行動レベルや、易発病性にも影響を及ぼしていることが報告されている[4-7]。精神的問題については、例えば全身性硬化症患者の全般的葛藤が疾患の罹患期間とSOCに関係していること、彼らの不安が関節炎による疼痛とSOCに関係していたことが報告されている[8]。また、地域に住む統合失調症患者のSOCと精神症状との関連[9]や、大うつ病患者の最初のエピソードからの回復とSOCとの関連[10]がそれぞれ調査されており、精神障害と適応機能、SOCとの関連が示唆されている。

なおわれわれは、精神科急性期病棟入院患者のSOC調査[11]、アルコール依存症者のSOC調査[12]、外科的治療を受ける癌患者と循環器疾患患者のSOC調査[13]、妊娠 9－10 か月の女性（妊娠経過が正常な者）のSOC調査[14]を実施してきた。それらを通じて示唆されたことは、SOCが必ずしも、変化することのない固定的特性とはいいきれない可能性があることと、SOCがそのまま直接的に否定的な心身の状態に繋がっているわけではないことの２点であった。また、何かしらの共通の条件や体験が、その集団のSOC水準を高めやすい、ないし低下させやすいことが示された。特にわれわれにとって予想外であったのは、外科的手術を受ける段階の循環器疾患患者のSOCと、妊娠 9－10 か月になる正常妊婦のそれが明らかに一般人口のそれと比較して高値であったことである。

このように、SOC の評価研究が様々な人々を対象に国内外で進められる中、低 SOC 得点群を示唆する調査所見は多いものの、高 SOC 得点群に関する研究は少ない。そこでわれわれは、上記先行所見の「妊娠後期の女性の SOC 得点が高い」という結果に基づき、妊娠期のいつの時点から SOC が上昇し、出産、育児を通じてそれがどのように変化するのかを明らかにしたく、本研究に着手するに至った。

２．研究の目的

女性の妊娠初-中期から妊娠後期、出産後 5 日以内、1 か月、4 か月、1 年時点までの SOC、気分状態、QOL 得点の各推移および、それら尺度得点間の関連を明らかにすることを目的とした。

３．研究の方法

総合病院の産科外来および産院、産科クリニック、計 7 施設の妊娠初-中期の妊婦を対象に、研究主旨と方法、倫理的配慮等を記した調査協力依頼書と同意書、さらに１回目の質問紙等一式を、外来受診時と母親学級参加時に配布した。質問紙には属性等に関する設問と、SOC評価尺度[3]、坂野ら（1994）[15]が作成した気分調査票、QOL評価尺度であるEuroQolの５項目法と視覚評価法（VAS）[16]を含めた。なお、その後は妊娠後期、出産後 5 日以内、1 か月、4 か月、1 年の 5 時点にて、同質問紙を対象者宅に郵送して回答を求めた。

分析方法は、記述統計を求めた上で、各尺度得点の縦断的変化を反復測定分散分析にて検定した。さらに、各尺度得点間の関連をピアソンの積率相関係数にて検定した。また、SOC や気分状態を説明する因子を明らかにするために、重回帰分析を行った。なお、各時点で情緒的体験について尋ねた結果（自由記載）は、質的帰納的に分析した。

４．研究成果

対象女性の SOC 得点は妊娠時より、一般女性のそれと比較して明らかに高く、その後も向上して出産後 4 か月時点ではピークに達した。さらに、出産後 1 年時点においても依然高値であった。気分状態は、爽快感以外はすべて経時的に有意な変化を示した。緊張・興奮、疲労感、抑うつは全体的に、妊娠初期が最も強く、その後は軽減していくというパターンであった。不安は、妊娠初期よりもむしろ妊娠後期にて最も高かった。QOL は、出産直後が最も低く、その後は育児期間の経過と共に若干向上した。

次に、SOC と気分状態、QOL 得点間では、軽度から中程度の相関が認められた。重回帰分析の結果からは、最も高かった出産後 4 か月時点の SOC を説明する変数として、爽快感、疲労感、不安、妊娠初期の SOC 得点が認められた。最も高かった妊娠初期の抑うつを説明する変数としては、出産回数、治療疾患の有無、同居者の有無が認められ、出産回数の少ない人ほど、治療している疾患がある人ほど、また、同居者がいる人ほど抑うつは高かった。

最後に、最も高かった妊娠後期の不安を説明する変数としては、同時点の SOC 得点、QOL 得点、母親学級への参加回数が認められ、母親学級の参加回数が多い人ほど不安は高かった。

次に、全期間を通じて自由記載の形で尋ねた情緒的体験の結果からは、以下のカテゴリ群が見出せた。妊娠前-中期には「定期健診時ごとの緊張」、「(妊娠体験があっても) それぞれ固有の妊娠であることの自覚」、「不安といらいら (それが胎児に影響するのではという心配)」等、後期では「出産後の心配と不安」、「一貫していない情報による混乱」等、出産直後と 1 か月後では、「赤ちゃんに出会えた感動」、「身体の痛み」等と、「寝不足・育児の大変さ」、「(それでも) 頑張りたい気持ち」、「サポーターへの感謝」等、4 か月後では「上の子どもに対する気がかりと負担」、「家族の絆の自覚」等のカテゴリ群である。さらに、出産後 1 年では「子への愛しさ」、「子どもの成長と喜び」、「(大変な) 子育てを楽しむ」、「自分自身の成長」、「自分の母親への思い」、「周囲からの支援の必要性と感謝の気持ち」、「もう一人欲しい」、「二人目の育児で新たに知る」等がカテゴリ化された。以上より、妊娠・出産・育児を通じて母親は固有で多様な体験をするが、共通点として、母親はいつの時点においてもアンビバレントな心境にあることと、子どもとの関係性をもって周囲への観方や関心 (価値観)、自身への評価 (自己の発見) を得ていることがうかがわれた。母子という二者関係を核として、他者や周囲との関係性を創造的に展開・発展させている可能性がうかがわれた。

以上の結果を踏まえた上での、妊産褥婦および育児女性に対するメンタルヘルス向上にむけた取り組みの重要性が示唆された。

文献

1) Antonovsky A: Health, Stress, and Coping; New Perspective on Mental and Physical Well-Being. Jossey-Bass, San Francisco, 1979.
2) Antonovsky A: Unraveling the Mystery of Health; How People Manage Stress and Stay Well. Jossey-Bass, San Francisco, 1987 (山崎喜比古監訳: 健康の謎を解く;ストレス対処と健康保持のメカニズム. 有信堂, 2001)
3) 山崎喜比古: 健康への新しい見方を理論化した健康生成論と健康保持能力概念 SOC. Quality Nursing 5: 825-832, 1999.
4) Eriksson M, Lindstrom B: Antonovsky's sense of coherence scale and the relation with health: a systematic review. J Epidemiol Community Health 60: 376-381, 2006.
5) Flensborg-Madsen T, Ventegodt S, Merrick J: Sense of coherence and physical health. A review of previous findings. Scientificb WorldJournal 25: 665-673, 2005.
6) Nesbitt BJ, Heidrich SM.: Sense of coherence and illness appraisal in older women's quality of life. Res Nurs Health. 23: 25-34, 2000.
7) Poppius E, Virkkunen H, Hakama M, et al. The sense of coherence and incidence of cancer-role of follow-up time and age at baseline. J Psychosom Res 61: 205-211, 2006.
8) Hyphantis TN, Tsifetaki N, Pappa C, et al.: Clinical features and personality traits associated with psychological distress in systemic sclerosis patients. J Psychosom Res62: 47-56, 2007.
9) Bengtsson-Tops A, Brunt D, Rask M. The structure of Antonovsky's sense of coherence in patients with schizophrenia and its relationship to psychopathology. Scand J Caring Sci 19: 280-287, 2005.
10) Skarsater I, Langius A, Agren H, et al.: Sense of coherence and social support in relation to recovery in first-episode patients with major depression: a one-year prospective study. Int J Ment Health Nurs 14: 258-264, 2005.
11) 松下年子, 松島英介, 平野佳奈, 他: 精神科急性期病棟入院患者の SOC(sense of coherence)調査. 精神医学 47: 47-55, 2005.
12) 松下年子,伊藤美保,新井清美:アルコール依存症者の喫煙行動と SOC(Sense of Coherence). 日本社会精神医学会雑誌 16(1): 13-21, 2007.
13) 松下年子、大木友美、濱島央、他: 外科的治療を受ける癌患者と循環器疾患患者の首尾一貫感覚 : SOC (Sense of Coherence) . 総合病院精神医学 17: 278-286, 2005.
14) 松下年子、原田美智、大浦ゆう子: マタニティブルーと SOC. 日本保健科学学会誌 10 : 5-14, 2007.
15) 坂野雄二, 福井知美, 熊野宏昭, 他: 新しい気分調査票の開発とその信頼性・妥当性の検討. 心身医学 34(8): 629-636, 1994.
16) 日本語版 EuroQol 開発委員会: 日本語版 EuroQol の開発. 医療と社会 8(1): 109-117, 1998.

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１件）

①松下年子、岡部惠子、小倉邦子、松本幸子、関博之、原田美智、藤田佳代子、宇賀神恵理、斉藤美保、田中瞳、神坂登世子、上野恭子、丸山和美、高嶋真紀、木村ゆかり、妊娠中のSOC（sense of coherence）とQOL、第 40 回日本看護学会論文集：精神看護 2009 年、査読有、2010、57-59

〔学会発表〕（計 11 件）

① 松下年子、原田美智、藤田佳代子、宇賀神恵理、坂口由紀子、田中瞳、岡部惠子、神坂登世子、妊娠から出産後 4 か月までのＱＯＬおよび気分感情状態の変化とSOC(sense of coherence：首尾一貫感覚)、第 30 回日本看護科学学会学術集会、2010 年 12 月 3 日、札幌市立大学看護学部

② 松下年子、鈴木輝美、原田美智、藤田佳代子、宇賀神恵理、坂口由紀子、田中瞳、岡部惠子、松本幸子、関博之、神坂登世子、上野恭子、妊娠から出産後 4 か月までの 妊産褥婦の心理的体験-縦断的質問紙調査の自由記載より-、第 51 回日本母性衛生学会総会・学術集会、2010 年 11 月 5 日、石川県立音楽堂・金沢市アートホテル・ホテル日航金沢

③ 松下年子、原田美智、藤田佳代子、鈴木輝美、宇賀神恵理、坂口由紀子、田中瞳、岡部惠子、松本幸子、関博之、神坂登世子、上野恭子、妊娠から出産後 4 か月までの気分感情状態の推移とSOC、第 51 回日本母性衛生学会総会・学術集会、2010 年 11 月 5 日、石川県立音楽堂・金沢市アートホテル・ホテル日航金沢

④ 松下年子、大木友美、 本江朝美、田中晶子、井原緑、原田美智、看護研究とSOC-看護研究におけるSOC評価の意義と、今後のSOC研究の方向性について考える-（交流集会）、第 36 回日本看護研究学会学術集会、2010 年 8 月 22 日、岡山コンベンションセンター

⑤ 田中瞳、松下年子、岡部惠子、宇賀神恵理、坂口由紀子、原田美智、藤田佳代子、神坂登世子、上野恭子、妊娠から出産後 1 か月までのQOL(quality of life)の変化-妊産婦を対象とした縦断的質問紙調査(2)-、第 36 回日本看護研究学会学術集会、2010 年 8 月 21 日、岡山コンベンションセンター

⑥ 原田美智、松下年子、岡部惠子、宇賀神恵理、坂口由紀子、田中瞳、藤田佳代子、神坂登世子、上野恭子、妊娠から出産後 1 か月までの気分・感情状態の変化-妊産婦を対象とした縦断的質問紙調査(1)-、第 36 回日本看護研究学会学術集会、2010 年 8 月 21 日、岡山コンベンションセンター

⑦ Toshiko Matsushita、Keiko Okabe、Michi Harada 、 Sachiko Matsumoto 、 Kayoko Fujita、Toyoko Kamisaka、Kyoko Ueno、Kazumi Maruyama、Terumi Suzuki、Kuniko Ogura、Miho Saito、Eri Ugajin、Hitomi Tanaka、Yukihiro Seki、Maki Takashima、Yukari Kimura、Sense of Coherence and QOL for Japanese Pregnant Female、ISPN 12th Annual Conference、2010 年 4 月 14 日、セントルイス

⑧ 松下年子、岡部惠子、小倉邦子、原田美智、藤田佳代子、神坂登世子、上野恭子、宇賀神恵理、斉藤美保、妊産婦のＳＯＣ（sense of coherence）と抑うつ気分、第 29 回日本看護科学学会学術集会、2009 年 11 月 27 日、幕張メッセ

⑨ 松下年子、岡部惠子、小倉邦子、原田美智、松本幸子、関博之、藤田佳代子、上野恭子、宇賀神恵理、斉藤美保、田中瞳、高嶋真紀、木村ゆかり、妊産婦のQOLと気分状態の変化-縦断的質問紙調査の結果より-、第 50 回日本母性衛生学会学術集会、2009 年 9 月 28 日、パシフィコ横浜

⑩ 松下年子、岡部惠子、小倉邦子、松本幸子、関博之、原田美智、藤田佳代子、宇賀神恵理、斉藤美保、田中瞳、神坂登世子、上野恭子、丸山和美、高嶋真紀、木村ゆかり、妊娠中のSOC（sense of coherence）と気分状態、第 40 回日本看護学会母性看護、2009 年 8 月 6 日、佐賀市文化会館

⑪ 松下年子、岡部惠子、小倉邦子、松本幸子、関博之、原田美智、藤田佳代子、宇賀神恵理、斉藤美保、田中瞳、神坂登世子、上野恭子、丸山和美、鈴木輝美、高嶋真紀、木村ゆかり、妊娠中のSOC（sense of coherence）とQOL、 第 40 回日本看護学会精神看護、2009 年 7 月 23 日、島根県民会館

〔その他〕
ホームページ等
http://www.saitama-med.ac.jp/hoken/kango/matsushita%20toshiko%20hp/soc.html

６．研究組織
(1)研究代表者
松下　年子（MATSUSHITA TOSHIKO）
埼玉医科大学・保健医療学部・教授
研究者番号：50383112

(2)連携研究者
岡部　惠子（OKABE KEIKO）
埼玉医科大学・保健医療学部・教授
研究者番号：90279886

関　博之（SEKI HIROYUKI）
埼玉医科大学・総合医療センター・教授
研究者番号：20179328